

様式1 人口、建物、避難所等の施設、災害危険性の評価

大通小学校区

●住所名称

大通1・2丁目	
大通黄金1～7丁目	
大通西	
大通南1～5丁目	
上塩俵	
下塩俵	
鷺ノ木新田	

●位置図

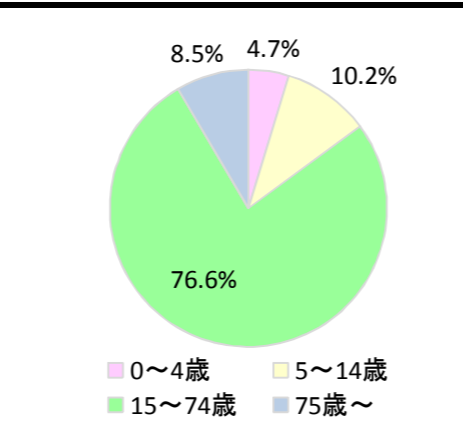


●施設・団体

市役所・区役所等	—	
警察・消防	大通駐在所	
消防団	南方面隊 白根鷺巻分団・白根根岸分団	
水防倉庫	—	
一時避難場所	白根排水機場跡地、大通公園、大通はあと公園、大通南3号公園、大通南2号公園、大通南1号公園、大通さつき公園、大通ふれあい公園	
広域避難場所	—	
主 利 な 用 要 施 配 設 慮 者	幼稚園・保育園	大通保育園、ガデリウス・いぶき保育園
	高齢者福祉施設	十季のあかり白根、むつみの里、白根ヴィラガーデン
	障がい者福祉施設	—

●人口

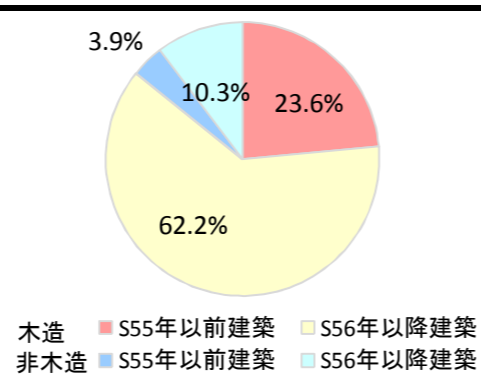
総人口	7,783人	地区の割合	市の割合
0～4歳	368人	4.7%	4.0%
5～14歳	792人	10.2%	8.5%
15～74歳	5,963人	76.6%	74.6%
75歳～	660人	8.5%	12.9%
65歳以上人口	1,309人	16.8%	26.0%
世帯数	2,739世帯		
一世帯あたり人口	2.8人／世帯		2.5人／世帯
人口密度	2,501人／km ²		1,108人／km ²
昼間人口	5,308人	夜間の68.2%	



●建物関連指標

総棟数	3,401棟	地区の割合	市の割合
木造			
S55年以前建築	801棟	23.6%	44.2%
S56年以降建築	2,116棟	62.2%	46.7%
計	2,917棟	85.8%	90.9%
非木造			
S55年以前建築	133棟	3.9%	3.4%
S56年以降建築	351棟	10.3%	5.7%
計	484棟	14.2%	9.1%
S56年以降建築物	2,467棟	72.5%	52.4%

S55年以前:主に旧耐震 S56年以降:主に新耐震
※集計時に端数処理をしたため、合計値があわないことがあります。



●地区内の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]大通小学校	1.2	2	○	—	2階以上	—
[ヒ]大通保育園	1.5	1	○	—	×	—
[ヒ]大通地域生活センター	0.6	2	○	—	2階以上	—

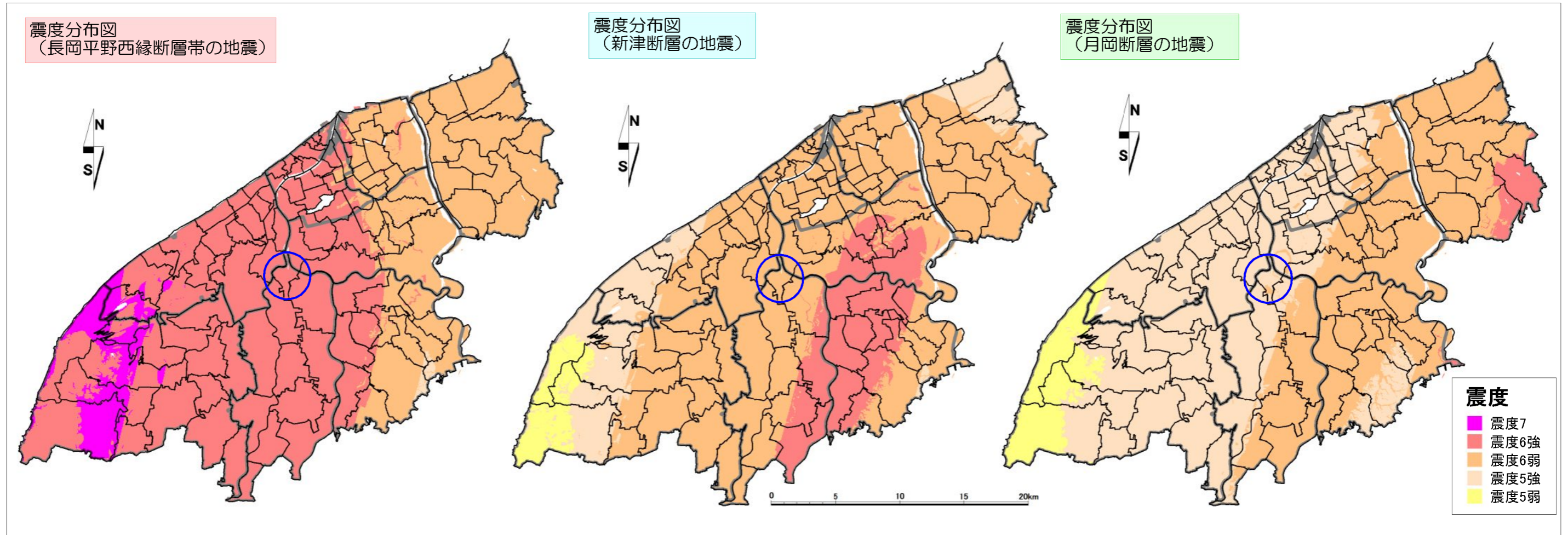
●地区外の避難所・津波避難ビルなど

施設名 [ヒ]:避難所、[ツ]:津波避難ビル・場所	標高 (m)	階 数	避難可否			
			地震	津波	洪水	土砂災害
[ヒ]白根北中学校	1.0	3	○	—	2階以上	—
[ヒ]大野小学校	1.1	4	○	—	3階以上	—
[ヒ]黒崎中学校	1.3	4	○	—	2階以上	—
[ヒ][ツ]黒崎市民会館	1.2	3	○	3階以上	2階以上	—
[ヒ][ツ]曾野木小学校	0.6	4	○	3階以上	2階以上	—

避難の可否:「—」はそれぞれの災害で避難の対象外、津波で「×」の施設は、津波避難の対象外かつ津波浸水の危険性がある。

●災害危険性の評価

地震・津波	地区の広い範囲に軟らかい地盤が分布するため、大きい地震の時には、強い揺れや液状化の可能性はある。 津波の浸水は、地区の北端や信濃川沿いのごく狭い範囲で想定されている。
洪水・土砂	信濃川下流の洪水、中ノ口川の洪水及び鷺ノ木大通川・西大通川流域の洪水によって、地区の広い範囲で浸水の可能性がある。



	長岡平野 西縁断層帯	新津断層	月岡断層
地震の規模: モーメント マグニチュード	7.46 (気象庁マグニチュード 7.9に相当)	6.45 (気象庁マグニチュード 6.7に相当)	6.76 (気象庁マグニチュード 7.1に相当)
(参考※)	平均活動間隔 約 1,200 年~3,700 年 断層の活動性 3m/千年程度	明確な活動性は明らか になっていない。 月岡断層より、活動性 は低いと考えられる。	平均活動間隔 7,500 年以上 断層の活動性 0.4m/千年程度

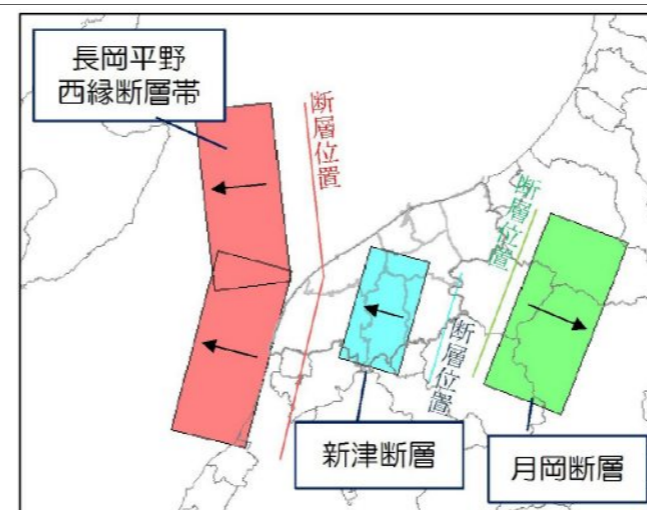
※(参考) 国の地震調査研究推進本部の活断層帯の長期評価(算定基準日:平成 27 年 1 月 1 日)及び東京大学地震研究所 佐藤比呂志教授の助言を参考として記載しています。

【地震発生確率について(地震調査研究推進本部資料より)】

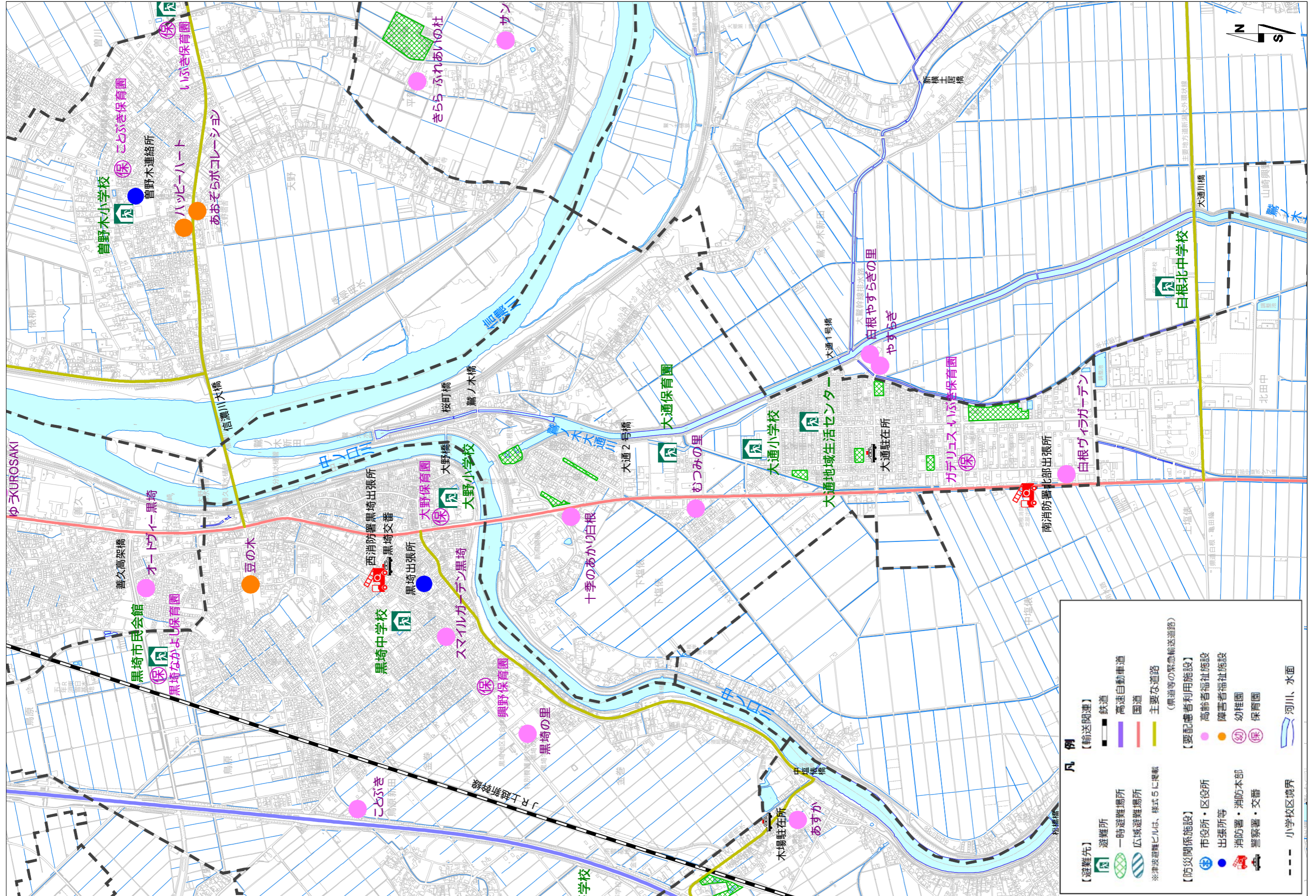
過去の地震活動の時期や発生間隔は、幅を持って推定せざるを得ない場合が多いため、地震発生確率は不確定さを含んでいます。また、新たな知見が得られた場合には、地震発生確率は変わることがあります。

<<モーメントマグニチュードと気象庁マグニチュード>>

モーメントマグニチュードは、地震で岩盤が動いた面積等をもとに計算するため、計測に時間を要しますが、エネルギーの規模を正確に測定することができます。これに対して、気象庁マグニチュードは、地震計で計測される波の振幅から計算しており、迅速に発表することができます。



← は、断層の傾きを示しています。



[出典] 基礎の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年)

0 500 1,000 1,500 2,000m

凡例

【避難先】

- 避難所 (避難所)
- 一時避難場所 (一時避難場所)
- 広域避難場所 (広域避難場所)

※津波避難ビルは、様式5に掲載

【防災関係施設】

- 市役所・区役所 (市役所・区役所)
- 出張所等 (出張所等)
- 消防署・消防本部 (消防署・消防本部)
- 警察署・交番 (警察署・交番)

【輸送関連】

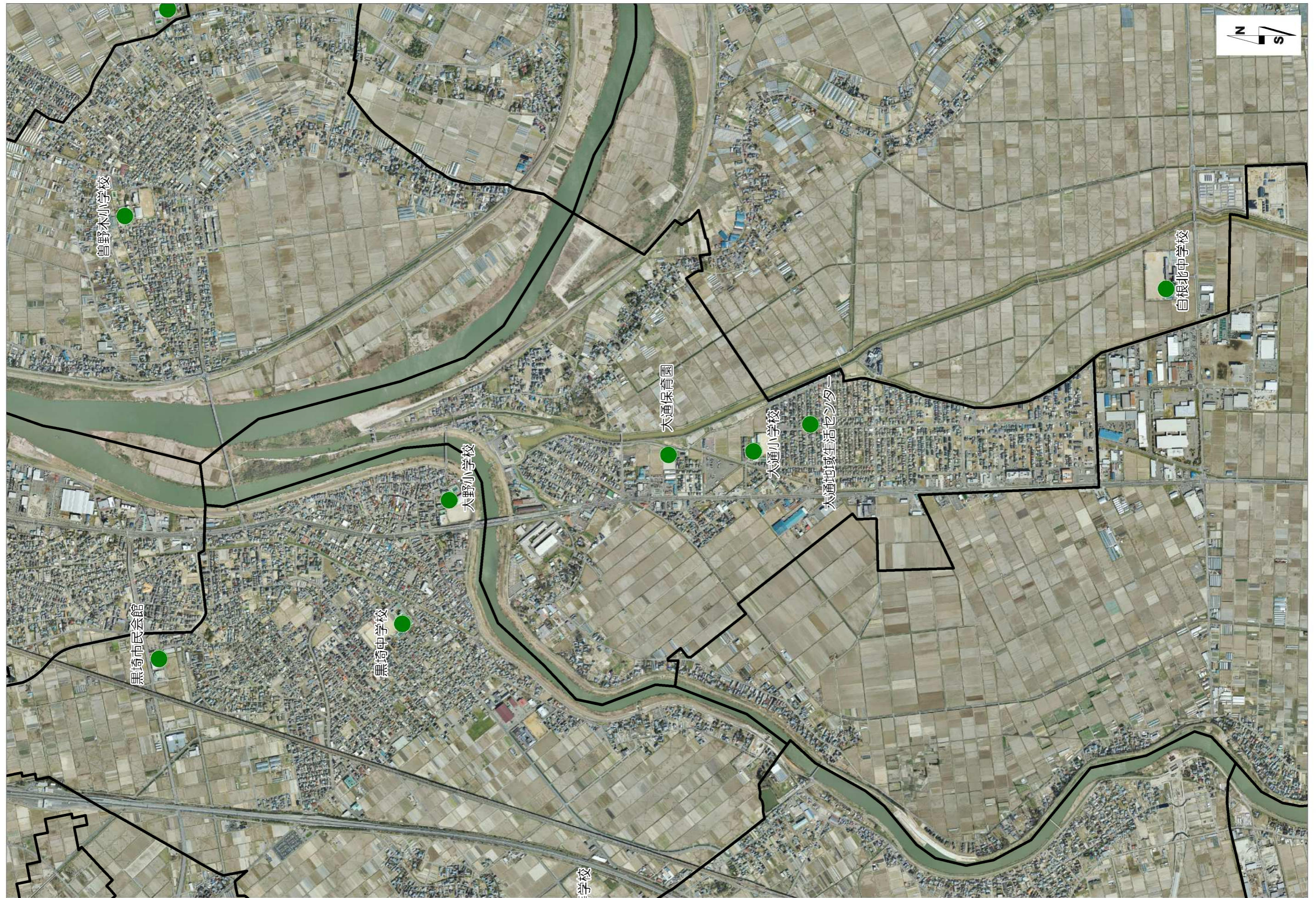
- 鉄道 (鉄道)
- 高速自動車道 (高速自動車道)
- 国道 (国道)
- 主要な道路 (主要な道路)
- (県道等の緊急輸送道路)

【要配慮者利用施設】

- 高齢者福祉施設 (高齢者福祉施設)
- 障害者福祉施設 (障害者福祉施設)
- 幼稚園 (幼稚園)
- 保育園 (保育園)

河川、水面 (河川、水面)

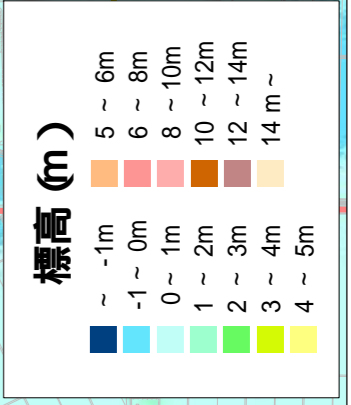
--- 小学校区境界 (小学校区境界)



【出典】 航空写真(平成26年4月)



様式5 標高分布図



凡例

【避難先】

- 避難所
- 一時避難場所
- 広域避難場所
- 津波避難ビル
- 津波避難場所

【防災関係施設】

- 市役所・区役所
- 出張所等
- 消防署・消防本部
- 警察署・交番

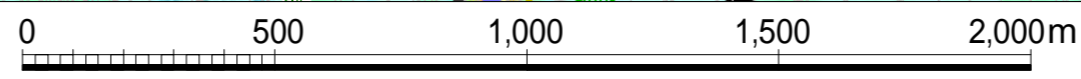
【輸送関連】

- 鉄道
- 高速自動車道
- 国道
- 主要な道路 (県道等の緊急輸送道路)

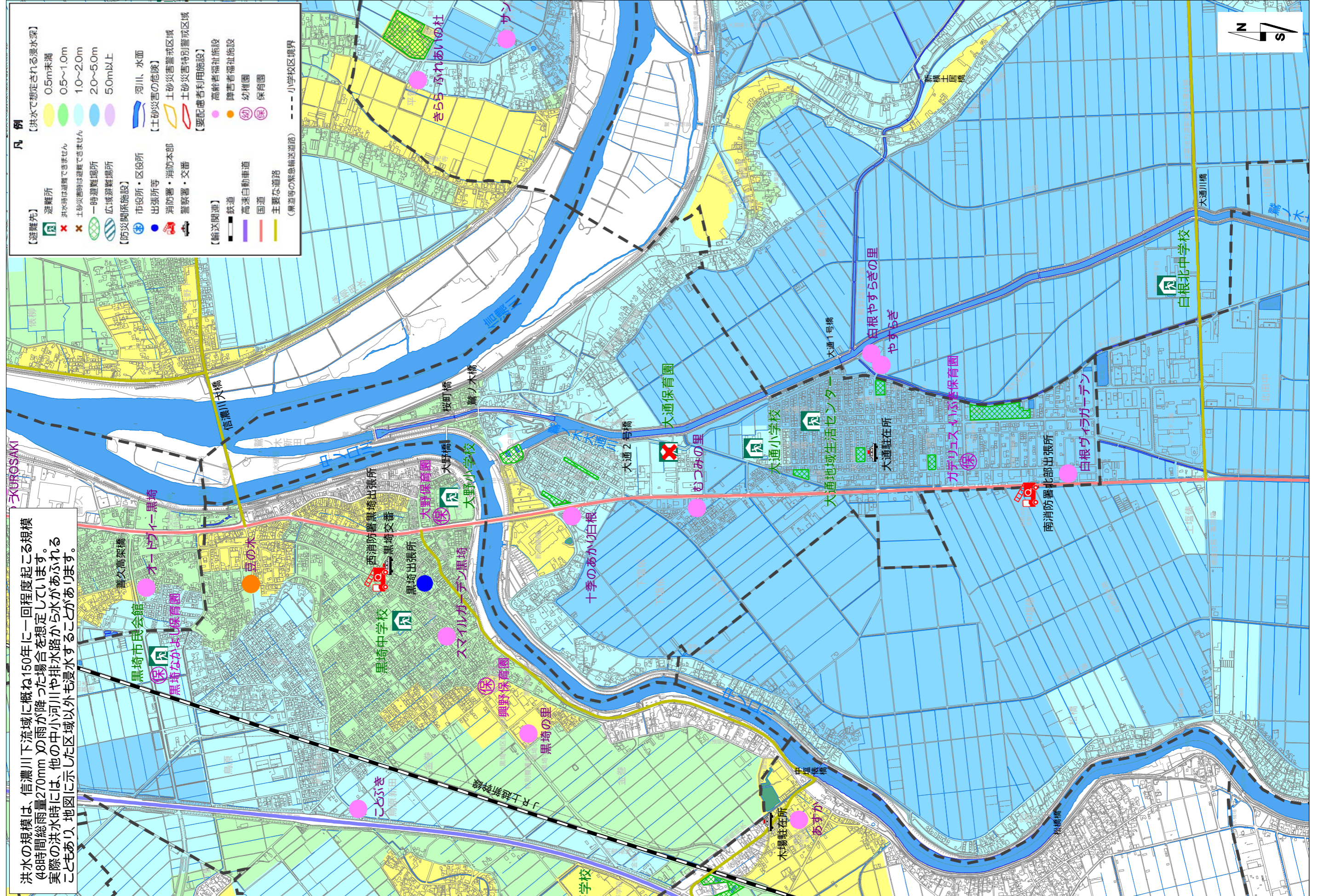
【要配慮者利用施設】

- 高齢者福祉施設
- 障害者福祉施設
- 幼稚園
- 保育園
- 小学校区境界

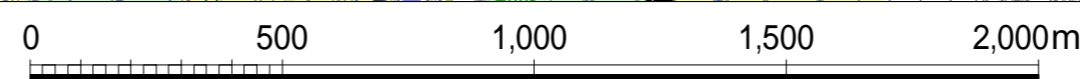
【出典】 基盤の地図 新潟市国土基本図 (平成20年, 平成25年, 平成26年) 5mメッシュDEM (国土地理院, 平成25年)



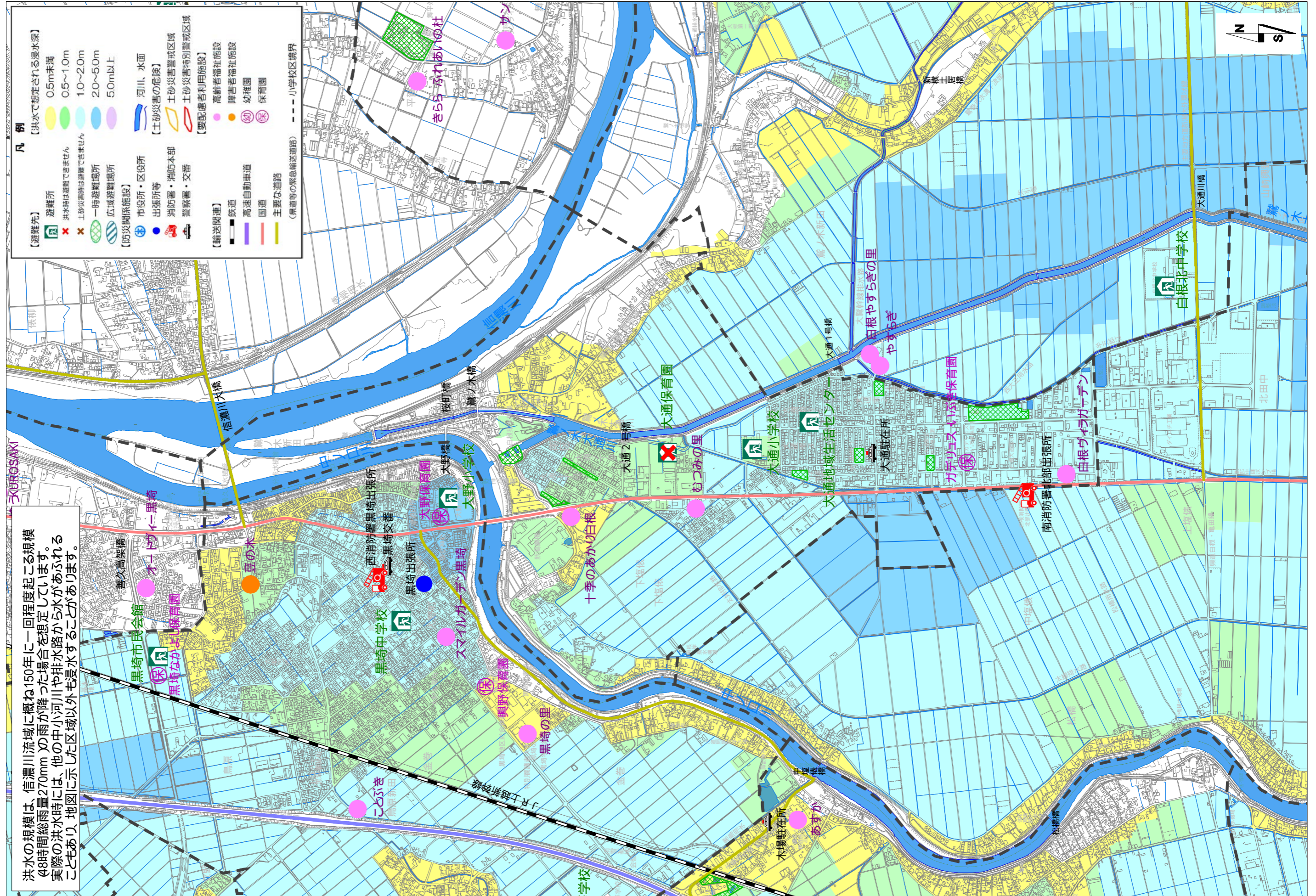
様式6-1 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（信濃川下流）



【出典】 基礎の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年)
 信濃川下流浸水想定区域(国土交通省,平成14年4月30日)

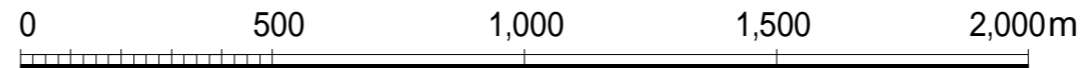


様式6-2 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（中ノ口川）



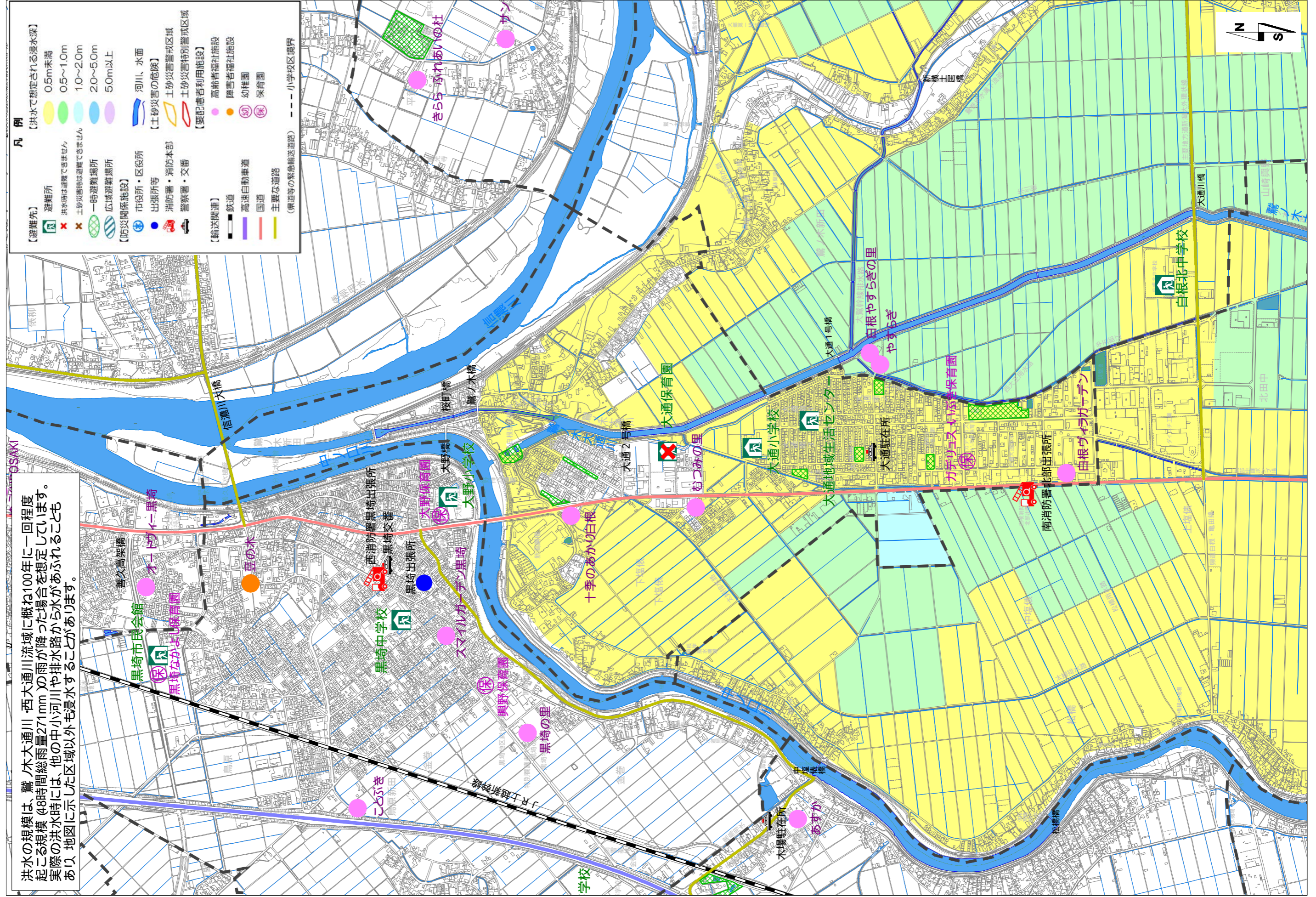
洪水の規模は、信濃川流域に概ね150年に一回程度起こる規模(48時間総雨量270mm)の雨が降った場合を想定しています。実際の洪水時には、他の中小河川や排水路から水がふれることもあり、地図に示した区域以外も浸水することがあります。

【出典】 隣接の地図 新潟市国土基本図(平成20年,平成25年,平成26年) 中ノ口川浸水想定区域(新潟県,平成16年6月15日)



様式6 - 3 風水害（洪水・土砂災害）対策地図（鷲ノ木大通川・西大通川）

大通小学校区



【出典】 隣接の地図 新潟市国土基本図（平成20年、平成25年、平成26年）
 鷲ノ木大通川・西大通川浸水想定区域（新潟県、平成21年8月21日）

